



河内二等水兵の石碑。裏に碑文が全くありません。

「しかし、詳しく調べられたん
— 富田 そんなに詳しくは調べてない
— 富田 そうですね。ただ一つの事件が
別の事件と関係してたり、ある
人となる人がつながってたりい
して、ひじょうに関連が深い
です。それで、とてもおもしろ
いわけです。

— 庶民から見た歴史ですね。
— 富田 そうですね。大野に生まれ
て、生活した人たちの歴史です。
「こんな人もいた、あんな人も
いた」。そういう記録です。

— 本ができたあがった時はどう
— 富田 ただ嬉しかった。やつとで
きたか、という気持ちでした。ね
最初の地図を描いてから一年は
かかりましたから。

— 奥さんみたいへんだったんで
— 富田 (笑って) そうですね。だい
ぶん心配させましたね。でも、よ
うやく本もできましたし、ほつ
としてるんじゃないんですか。
今、一番心配してるのは、この
本が売れるかなあ、ということ
です。

— 黒崎町の町史はどうですか。
— 富田 いやあ、そこまでは。浅妻
さん(県立女子短大教授)もそ
う言ってくれますが、まだ大野
だけでも完全ではありませんか
らね。この本に書けなかった歴
史がまだまだあると思うんです
よ。それを調べていきたいと
思っています。

まだまだ掘り 起したい歴史

※1 源五右エ門橋
ゲンジゴミ橋と読む。今の
の上流約三百メートルの地点に
明治の中ごろ建設された木橋で、
明治四十三年に安進丸が衝突し
壊れる。

※2 旗本
江戸幕府の將軍家直屬の武士で、
將軍に直接会えた。

※3 泰面鉄道
太平洋戦争当時、タイとビルマ
を運ぶ為に日本軍が建設した。
四百五十キロの距離の内、約一割
の四十二キロが橋梁で、その工事
は難行を極めた。

※4 義和團事変
明治三十二年、中国の反キリス
ト教組織の義和團が排外を目的と
して武装蜂起し、各国大使館を襲
った。

注釈

今日と違い、環境衛生問題は
大きくとらえられておらず、伝
染病である赤痢が非常に流行し、
村民の大きな驚異であった。ま
たこの時期より少し前は痘そう
患者も、かなり多かったという。
こんな時代であったため、明
治三十五年歳出予算三千六百二
十五円の内、臨時部支出二百四
十三円全額がその予防等の費用
にあてられ、さらに追加予算と
して百五十九円が使われ、果
かに村民の重大問題であった
か知ることが出来る。
そのため、この仕事に従事す

— 広報編集者が、富田さん宅にイ
ンタビューに訪ねた日は、本が印
刷所から届いたばかりでした。
積み上げられた「大野町の今昔」
を見ながら話す富田さん。だんだ
んと熱くなってきたようす。これ
も書いておきたかった。あれも残
しておきたかった」と郷土史への
興味は尽きないみたいです。
現在、黒崎町には町史がありま
せん。「大野町の今昔」は町史へ
向けての大きな一歩となるでし
ょう。

くろさき 井戸ばなし

伝染病・赤痢の
流行

当時の村政問題として、合村
創業のための整理・準備時代で
あったので、従って種々村政執
行上、必要と認められる規範を
示す、いくつかの条例・規程な
どを定めたり、意志機関である
村会も比較的純正な軌道に乗っ
てきたのである。

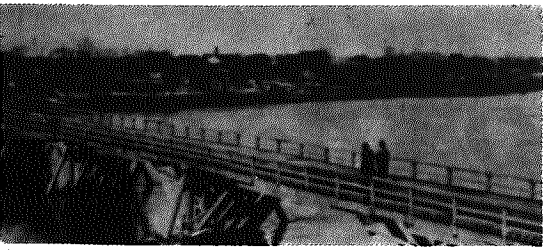
黒崎村会議事細則案・議事傍
聴人心得・村税徴収期限・督
促手数料条例・基本財産蓄積
条例・公書式条例・吏員給与
具料に関する件・伝染病予防
定員に関する件、学務委員会定
員に関する件、物品調達に關
する件、伝染病舎設定の件等
これらは合村当初一、二年間
に設けられたものであった。
(昭和六年発行の黒崎村報より
転載)

今号で、「くろさき昔ばなし」
の連載を終了します。長い間、
ご愛読ありがとうございました。

心配ごと相談の利用を、毎週土曜午後1時から役場二階

百三十枚もの 写真を収録

「大野町の今昔」の簡単な内
容を
— 富田 聞き書き帳です。でき
るだけ多くの人のお話を載せま
した。中身は、まず大野町の地
名の由来ですね。そして、諏訪
神社や中ノ川の橋の歴史。ま
た、消防団にも従事していたの
で大野の大火や、スポーツ、演
芸など。とにかく、「こんな事も
あったのかなあ」という話を残
しておきたかったのです。



大正十四年に架設された初代大野橋

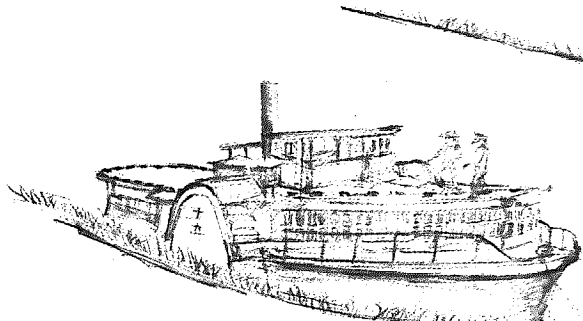
小山呉服店の 古文書を発見

— 小山呉服店の古文書はどうい
うふうにして発見したんですか
— 富田 黒島の箱田重松さんから小
山さんの家に古文書がたくさ
んと聞いて行って見ました。
そしたら、約六十点もありまし
て、驚きましたねえ。

— 百田さんが解説したんですか
— 富田 いえ。私は古文書は読めな
いものです。新潟市割野の
小熊雅雄さんにお願ひしました。
小熊さんも、長い間郷土史を研
究されていて、私が「源五
右エ門橋」の取材をして偶然知
り会ったのです。この本を書い
て、そういうふうによくの人に
知り合いになりました。

池の端藩の 領地だった大野

— それで、古文書の内容は。
— 富田 これがまあ大発見なんで
大野町の地名がいつから使われ
たのかわかりました。江戸時
代の寛保二年(一七四二年)に
は古文書に「大野町」と記され
ているんです。で、享保十二年
(一七二七年)には金巻村と書か
れています。



富田さんが描かれた安進丸

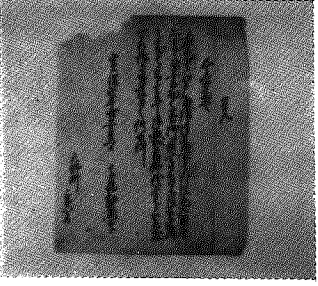
— 大野は池ノ端藩の
領地だったんですか
— 富田 今の北蒲原郡の
豊浦町に池ノ端藩の
代官所跡がありまし
て、私も行って見てき
ました。ただ、なぜ大
野が池ノ端藩の領地
だったかはわからな
い。

— 池ノ端藩というの
は、わずか五千石の
領地だったんですか
— 富田 領地は江戸時代、新
発田藩や村上藩の領地が入り
込んで複雑なんです。その
関係もあつたかもしれない。
でも、私はこの古文書の発見
だけでもこの本を書いた価値が
あつたと思っています。

「戦場にかける橋」 をかけた 兵隊がいた

— 広報一八三号でお知らせした
のですが、日清、日露戦争に参
戦された方はわかりましたか。
— 富田 ええ。ご遺族の方から連絡
があつたり、私自身も調べて大
野町については全部わかりまし
た。違つ話ですが、「戦場にかける
橋」という映画で有名な三泰
鉄道建設をした人が大野にいら
るんですよ。新田町の保倉八郎
さんなんです。この工事はひ
どかつたらしいですね。

— 他にも、諏訪神社にある河内
二等水兵の慰霊碑についてもか
なりわかりました。この碑には
全く碑文がない人で、子供の
ころからどういふ人なんだらう
と思つてましたが、どうも※5
義和團事変で犠牲になられた方
みたいなんです。



寛保二年の古文書、左下に大野と記されています。